

水戸葵陵高等学校医歯薬コース

2016年1月

医歯薬通信 **SANS FRONTIERES** vol.22

水戸葵陵高等学校ホームページ <http://www.kiryo.ac.jp/>

はじめに

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

さて、今回は「期待される医師像」について考えてみたいと思います。厚生労働省は大学の医学部関係者を集めた「医学教育の改善に関する調査研究協力者会議」において、「期待される医師像」を次のようにまとめています。

- ①医師は、生涯を通して最新の知識・技術を学習し、多様な情報を自ら組み合わせ、未知の課題を解決していくという積極的な姿勢が必要である。
- ②医師は、医学・医療の全般にわたる広い視野と高い見識を持つ必要がある。
- ③医師は、人間性豊かで暖かさがあり、人間の生命に対して深い畏敬の念をもち、患者や家族と対話を行いその心を理解し、患者の立場に立って診療を行う必要がある。
- ④医師は、自然科学としての医学を学ぶのみではなく、医学を支える周辺の科学的知識、並びに深い教養を備えることに努めるべきである。
- ⑤医師は、地域医療に関心を寄せ、健康の保持、疾病の予防から社会復帰に至る医療全般の責任を有することを自覚すべきである。
- ⑥医師は、医師としての社会的責任を自負し、社会の健全な発展に対して積極的に貢献することが期待される。
- ⑦医師は、自らの能力の限界を自覚し、困難な課題に直面した際には、適当な医療機関等への相談、紹介など適切な対応ができなければならない。
- ⑧医師は、医療に従事する様々な職種の人々と適切に役割分担し、良き指導者としての役割を演じていくことが期待される。

とてもハードルが高いものですが、医学部を受験する生徒には、この「期待される医師像」から逆算された能力・資質が問われているといえます。医歯薬コースの生徒のみなさんは、これを踏まえ日々研鑽し精進努力して欲しいと思います。

1日HR・国際福祉機器展・日本科学未来館



10月9日に東京・お台場へ医歯薬コース1, 2年生100名で1日ホームルームへ出かけてきました。まず最初に東京ビックサイトで開催されていた国際福祉機器展2015へ向かいました。ある班はお尻を自動で拭くロボット便座のイベントに参加したり、またある班は錠剤や苦い薬を飲みやすくするための服薬ゼリーを実際に試飲していました。広い会場内には

高齢者や身体が不自由な人のためのみならず、その方々を介助、介護する方へも配慮された様々な物が展示、発表されており、生徒たちも時間いっぱいまで見学していました。午後の訪問先である日本科学未来館へは、昼食を済ませて現地集合する班別自主研修を行いました。充実した表情で現地に到着した様子から、十分に研修を満喫できたことと推察できました。日本科学未来館では、直前に大村氏、梶田氏がノーベル賞の受賞が決まったこともあり、両氏に関するブースを見学する班が多く見られました。学芸員の方からの説明を熱心に聞き入る生徒の姿が印象的でした。1時間半ほど見学時間を取りましたが、時が経つ方が早く、個人的に再訪を決意する生徒もおりました。医歯薬医療系や理工系へ進学を希望する生徒たちにとって、その興味、関心を喚び、モチベーションを高めることのできた充実した1日ホームルームとなり、教員側も満足のいくものになりました。



訪を決意する生徒もおりました。医歯薬医療系や理工系へ進学を希望する生徒たちにとって、その興味、関心を喚び、モチベーションを高めることのできた充実した1日ホームルームとなり、教員側も満足のいくものになりました。

いのちの学習会

12月19日に医歯薬コースの1, 2年生を対象に、「いのちの学習会」が実施されました。

「臓器移植について考えよう」というテーマで、講演してくださったのは、NPO法人ハート to ハート・ジャパン理事 臓器移植患者団体連絡会幹事 厚生労働省 厚生科学審議会専門委員(臓器移植) 見目 政隆 先生です。先生ご自身の体験を通して、なぜ臓器移植について考えなければならないかを講演して頂きました。お子さんの病気をきっかけに、臓器移植法改正を働きかける活動をするなど、真摯に問題に取り組み、活動を続けて来られた先生の講演は、生徒たちに「自分自身のこととして考える」という契機になったようです。質問も多く出され、有意義な学習会になりました。



笠間マラソンボランティア

12月13日に第10回かさま陶芸の里ハーフマラソン大会が実施され、本校生徒約30名がボランティアスタッフとして大会の運営に携わった。大会参加者約5500名の大きな大会で生徒達は参加賞配布係、給水係、スープサービス係、記録証発行係などの仕事をこなしていた。参加した生徒からは「普段のなにげない行事も多くの人々の支えによって成り立っていると実感した。」「ランナーからのありがとう、ごくろうさまという声がうれしかった。」「誰かのために頑張ることにやりがいを感じた」「またボランティアとして参加したい」などの感想が寄せられた。5年前から続いているこの行事へのボランティア参加も年々増え、医歯薬コースの伝統となってきたようである。

高校生の医学セミナー・筑波病院

私は12月25日に実施された高校生対象の医学セミナーに参加しました。県内の高校で医師を志す生徒のみ参加しており、独特の雰囲気の中、大変貴重な体験ができました。筑波記念病院の見学から始まりましたが、救命救急室と手術室の見学に続いて実際の心臓手術を見る機会がありました。モニターに映し出された映像に緊張感が高まり動揺しましたが、医療技術の進歩は著しく自動で心臓マッサージができたり、コンパクトな内視鏡が開発されたりと医師と患者両方の負担を軽減していると説明がありました。その後、一人ずつ内視鏡と胃カメラを操作して模型の小腸と肺に管を導入しました。思い通りに操作するのは想像以上に難しく、機器の発展だけでなく医師も日々努力を重ねて技術力を向上させていると実感しました。最後に現役の医師3人を交えてグループディスカッションを行いました。医師のやりがいや毎日の生活スケジュールに加えて、趣味や勉強方法について丁寧に答えてもらえたことに感動し、医師への憧れが一層強くなりました。この経験を踏まえて自身も夢を叶えられるよう学習に励みたいと思います。(1年女子)

行事予定 2月・3月

- ・2月 4日(木) 医師講演会
- ・2月19日(金) 大学合格体験談(推薦合格者)
- ・3月 5日(土) 総合学習発表会(1学年)
- ・3月17日(木) 千葉科学大学出張模擬授業
- ・3月下旬 救急救命講習会(1学年)

老人ホーム訪問



12月19日、私は特別養護老人ホーム「ヴィレッジ水戸」へボランティアに行きました。私自身は2回目だったので先輩方に教えて頂いたこと活かし、かつ後輩のサポートをしようと張り切っていました。

ボランティアの内容は主に2つあります。クリスマス会ということで紙のクリスマスツリー作りと演劇部による短い劇です。テーブル毎に分かれて早速ツリー作りでしたが、いざ利用者のおじいさん、おばあさんと接してみると会話が続きにくくどうしよう戸惑うばかりでした。しかし、ツリーに色塗りをしている時、ある一言をきっかけに状況が変わりました。あるおばあさんが「ピンクのペン、どこですか。」と質問してきたので私がペンを手渡すと、「ごめんね、目を手術したばかりでよく見えなくて。」とにっこり笑って再び色塗りに戻られました。その方はその後も同じ利用者の方へ「この飾りは右に貼ろう。」「大丈夫?少し休もうか?」など声を掛けていらっしゃいました。私は初め、何でもサポートすることが大切なのだと思っていました。しかしその方と出会い、その姿を見て、できないことはサポートし、できることは見守ることが大切なのだということを学びました。頼ってもらえることは、本当に嬉しいことです。しかしすべて私がやってしまったら、相手のできること、やりたいことを奪ってしまうこととなります。これは将来医療に携わろうとしている私の良い教訓となりました。患者さんと接する際、このような心構えも必要だと思うからです。その方のおかげで他の利用者の方とも打ち解けることができ、ツリー作りが終わる頃には、その場にいる皆さんが笑いながら楽しくお話をしていました。その後の短劇でも「頑張れ。」「応援しているよ。」「格好良かったよ。」と、その方からたくさんの暖かい言葉をかけて頂きました。

会が終了し、スタッフの方のご厚意でその方を部屋まで一緒にお連れすることになりました。「また来てね。」別れる直前までその方は笑顔でした。「来年もまた来ます。」と約束して帰りました。今回のことを通して学んだことは私にとって本当に大きなものでした。あの姿、そして笑顔からもらったものは私の一生の財産です。(2年女子)